

中山間地域総合整備事業（大海地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

かほく市

八野B遺跡・黒川B遺跡

2005

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

はちの
八野B遺跡・くろかわ
黒川B遺跡

2005

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は八野B遺跡・黒川B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は八野B遺跡はかほく市八野地内、黒川B遺跡はかほく市黒川地内である。
- 3 調査原因は中山間地域総合整備事業（大海地区）に係るものであり、同事業を所管する石川県農林水産部中山間地域対策総室が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成14年（2002）年度から平成16（2004）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査にかかる費用は、石川県農林水産部中山間地域対策総室と、文化庁の補助を受けた石川県教育委員会が負担した。
- 6 現地調査は平成14（2002）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

八野B遺跡

期 間 平成14（2002）年5月7日～同年6月20日

面 積 530m²

担当課 調査部調査第2課

担当者 本田秀生（調査専門員）、加藤克郎（主事）

黒川B遺跡

期 間 平成14（2002）年11月26日～同年12月10日

面 積 200m²

担当課 調査部調査第2課

担当者 白田義彦（主任主事）、谷内明央（主事）
- 7 出土品整理は平成15（2003）年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成16（2004）年度に実施し、調査部調査第2課が担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は本田秀生（調査部調査第2課調査専門員）が行った。

第1章・第3章：白田義彦（調査部調査第2課主査）

第2章 本田秀生（調査部調査第2課調査専門員）
- 9 調査には下記機関の協力を得た。

石川県農林水産部中山間地域対策総室、県央農林総合事務所（旧津幡農林総合事務所）、かほく市教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - （1）方位は真北である。
 - （2）水平基準は海拔高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。

目 次

第1章 遺跡の位置と環境	1
第1節 遺跡の位置と地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 八野B遺跡	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査の経過	3
第3節 調査の概要	3
第4節 遺構と遺物	5
1. 遺 構	5
2. 遺 物	5
第5節 まとめ	11
第3章 黒川B遺跡	12
第1節 調査に至る経緯	12
第2節 調査の経過	12
第3節 調査の概要	12
第4節 遺構と遺物	14
1. 柱 穴	14
2. 土 坑	14
3. 溝	15
4. 鞍 部	16
5. 遺 物	16

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第7図 八野B遺跡遺物実測図(2)	9
第2図 周辺の遺跡	2	第8図 八野B遺跡遺物実測図(3)	10
第3図 八野B遺跡調査区位置と調査区全体図	4	第9図 黒川B遺跡調査区位置図	13
第4図 八野B遺跡遺構実測図	6	第10図 黒川B遺跡調査区全体図	14
第5図 八野B遺跡土層断面図	7	第11図 黒川B遺跡遺構実測図	15
第6図 八野B遺跡遺物実測図(1)	8	第12図 黒川B遺跡遺物実測図	16

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	2	第3表	八野B遺跡土器観察表	11
第2表	八野B遺跡石器計測表	7			

図版目次

図版1	八野B遺跡 遺構(1)				
	面調査区発掘調査前風景		面調査区全景		
	面調査区作業風景		面調査区作業風景		
	面調査区遺物出土状況		面調査区SK1上面遺物出土状況		
	面調査区SK1土層		面調査区SK1完掘状況		
図版2	八野B遺跡 遺構(2)				
	面調査区P1土層断面・礫出土状況		面調査区P1礫出土状況		
	面調査区P1完掘状況		面調査区P3遺物出土状況		
	面調査区P3礫出土状況		面調査区P3完掘状況		
	面調査区トレンチ1土層		面調査区トレンチ2土層		
図版3	八野B遺跡 遺構(3)				
	面調査区トレンチ2北壁土層		面調査区東壁土層		
	面調査区トレンチ3北壁土層		東西排水路調査区発掘調査前風景		
	東西排水路調査区表土除去風景		東西排水路調査区作業風景		
	東西排水路調査区全景		東西排水路調査区東端全景		
図版4	八野B遺跡 遺構(4)				
	東西排水路調査区東端南壁土層		南北排水路調査区調査前風景		
	南北排水路調査区全景		南北排水路南壁土層		
	南北排水路東壁土層		道路調査区①全景		
	道路調査区①北壁土層		道路調査区②全景		
図版5	八野B遺跡 遺構(5)				
	南北排水路南端調査区作業風景		南北排水路南端調査区トレンチ①		
	南北排水路南端調査区トレンチ②		南北排水路南端調査区トレンチ⑦-1		
	南北排水路南端調査区トレンチ⑥		南北排水路南端調査区トレンチ⑧-2		
	南北排水路南端調査区トレンチ⑧-1		八野集落墓地に残る五輪塔		
図版6	八野B遺跡 遺物(1)				
図版7	八野B遺跡 遺物(2)				
図版8	黒川B遺跡				
	遺跡遠景(大海西山遺跡から)		調査区遠景(北から)		
	完掘状況(北西から)		完掘状況(北東から)		
	SD1完掘状況(南から)		鞍部1土層(北西から)		
	出土遺物				

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

八野B遺跡と黒川B遺跡はかほく市・黒川に所在する。かほく市は、平成16年に高松町・宇ノ気町・七塚町の3町が合併して誕生した市である。かほく市の地形は大きく東側の山地・丘陵域と西側の砂丘域、それらの間に展開する沖積地に分けられる。かほく市の北東側山麓は宝達山系に連なる。宝達山の標高は637mで、能登の最高峰である。八野B遺跡と黒川B遺跡は宝達山系の裾に位置する。丘陵地では河川によって開析された大小の樹枝状小平野がみられる。両遺跡は大海川を挟むような位置関係にあり、直線距離で約0.5kmである。八野B遺跡は野寺川によって開析された小平野を望む位置にあり、黒川B遺跡も大海川によって開析された小平野を望む位置にある。また、両遺跡周辺は瓦の原料となる粘土を産出する地域としても知られている。なお、八野と黒川の集落には富山県小矢部市へぬける幹線が通っている。



第1図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

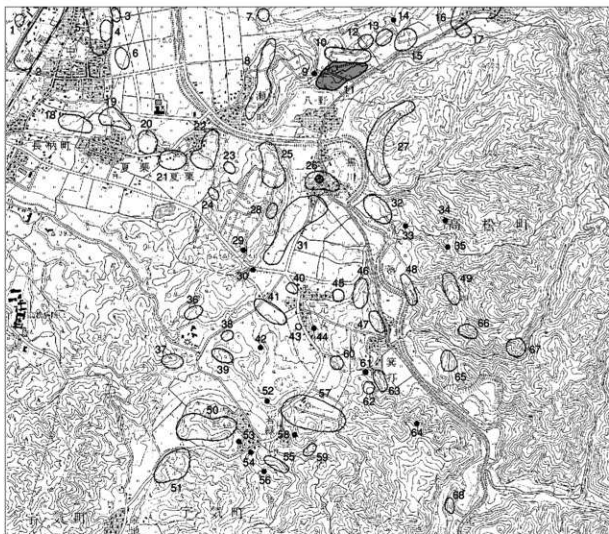
八野B遺跡と黒川B遺跡の周辺には縄文時代から中世に至る数多くの遺跡がみられる。縄文時代の遺物は散発的にみられるが、集落の実態は不透明である。

弥生時代になると丘陵上に集落が検出されている。黒川B遺跡の西側に張り出している丘陵上に大海西山遺跡があり、環濠を伴う弥生時代後期の高地性集落として知られている。かほく市には舌状に張り出す丘陵がよく見られるので、このような弥生集落が発見される可能性は高い。

古墳時代の集落の実態はよく分かっていない。遺跡の地表には古墳時代の遺物が散布しているので、集落の存在は想定されるが、規模はそれほど大きくはないものと思われる。また、古墳時代後期と思われる小規模な古墳や横穴墓はみられるが、大型の古墳はみられない。周辺は高松押水古窯跡群として窯跡が多いところであるが、この窯跡群の操業開始は古墳時代末とされ、八野周辺の窯跡群が古いようである。このように古墳時代は古墳時代後期から生産活動の活発化がみられる。

奈良～平安時代の集落の実態もよく分かっていないが、先述したとおり、古墳時代末から開始される高松押水古窯跡群は奈良～平安時代にかけて盛況を呈する。特に野寺、八野、黒川、元女、箕内、若緑に窯跡が多く見られる。窯跡群が出現した背景として、良質の粘土・燃料の薪の産出、窯に適した地形などが挙げられている。

中世になると周辺では中世経塚群・墳墓が多く見られる。これらは宗教活動の証左とみられており、宝達山と関係する修験道の影響とされている。



第2図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	中沼C遺跡	弥生	25	大海西山遺跡	弥生・平安	47	栗内緑塚群	中世
2	中沼A遺跡	縄文・平安	26	黒川B遺跡	古代	48	黒川橋穴群	古墳
3	中沼D東遺跡	平安・中世	*	黒川1-3号墳	古墳	49	黒川又七山緑塚群	中世
4	中沼きりやま古墳群	古墳後期	27	黒川ホドノタニ1-2号遺跡	奈良~平安	50	若緑イナノ山1-4号塚跡	平安
5	中沼D遺跡	古墳~平安	28	元女しんめい遺跡群	平安	51	奈地1-3号塚跡	平安
6	中沼ヤシキダ遺跡	平安~古世	29	元女西山遺跡	奈良	52	若緑タラヤマ遺跡	奈良
7	森本A遺跡	奈良~平安	30	元女遺跡	平安	53	若緑イナダヤ遺跡	不詳
8	瀬戸コノエ遺跡	古墳~平安	31	黒川遺跡	奈良~平安	54	若緑フラスキ遺跡	奈良~平安
9	八野タダド遺跡	不詳	32	黒川A遺跡	平安	55	若緑横穴群	古墳
10	八野ウツノ1-5号塚跡	不詳	33	黒川ムネヤマ塚跡	平安	56	若緑ミズガミ塚跡	奈良~平安
11	八野B遺跡	縄文・奈良~中世	34	黒川コエツノノタニ遺跡	平安	57	若緑中ウツノ1-8号塚跡	平安?
12	八野ウツノ遺跡	縄文	35	黒川ゴダン遺跡	平安	58	若緑小谷内遺跡	不詳
13	八野ガ山1-2号塚跡	奈良	36	若緑ヤキノ1-2号塚跡	奈良~平安	59	若緑アサタケ遺跡	不詳
14	八野アサタケ塚跡	奈良~平安	37	若緑カワツノ1-2号塚跡	平安	*	若緑ムネヤマ塚跡	平安
15	八野遺跡	古墳~奈良	38	若緑A遺跡	平安	60	元女A遺跡	平安
16	野寺1-4号塚跡	古墳?	39	若緑マツタケ山1-3号塚跡	奈良~平安	61	狭打南緑塚	不詳
17	野寺A遺跡	縄文	40	元女B遺跡	平安	62	狭打遺跡	不詳
18	長柄メダ遺跡	平安	41	元女新開山遺跡	奈良	63	狭打タキノヤマ1-3号塚跡	奈良~平安
19	長柄遺跡	奈良~平安	*	元女むかい遺跡	平安	64	狭打ムヤの遺跡	平安
20	夏葉メダ遺跡	古墳	42	若緑ホリト遺跡	平安	65	黒川身長橋穴群	古墳
21	夏葉A遺跡	奈良~平安	43	元女遺跡	中世	66	黒川高野寺1-2号塚跡	平安
22	夏葉B遺跡	奈良~平安	44	元女ゲンザンマイ遺跡	奈良	67	長城寺(明皇寺)跡	中世
23	西山敷地谷内遺跡	弥生・平安	45	元女らんと遺跡	平安	68	上大内緑塚	不明
24	夏葉C遺跡	奈良~平安	46	元女里山中所遺跡群	中世			

第1表 周辺の遺跡一覧表

第2章 八野 B 遺跡

第1節 調査に至る経緯

かほく市八野B遺跡発掘調査は、県営中山間地域総合整備事業（大海地区）に係るものである。県農林水産部中山間地域対策総室の依頼を受けた県教育委員会文化財課により、平成12年10月16・17日に対象地域2.8haについて試掘調査が実施され、埋蔵文化財の存在が確認された。この結果を基に両者で協議が持たれ、遺跡の壊される部分について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成14年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが県教育委員会から委託を受け、田面造成工事、排水路敷設工事などで遺跡の破壊される約530㎡に付いて実施した。

第2節 調査の経過

4月24、25日に現地調査工程について打ち合わせを行い、田面の削平が行われる箇所を面調査区として最初に調査を実施し、その後南北・東西の排水路部分の調査に取り掛かることとなった。

5月7日から面調査区の表土除去を実施し、8日から本格的に調査を実施した。面調査区北東部分は盛土造成されていることが判明し、調査から除外することになった。調査区内は近世以降の擾乱が著しい。5月20日から遺構検出を開始しているが、風倒木痕が多く面積を占め、柱穴、土坑等は南東隅に偏って検出されるにとどまった。5月末には遺構の掘り下げを終了し、実測に取りかかっている。

6月に入り、排水路工事に伴う調査区について打ち合わせを行った。南北排水路調査区は調査面積が減少し、一方、南北排水路調査区南側の平坦面が盛土造成されることになり、地形測量ののち人力で試掘調査を行うこととなった。また、農道部分の工事が一部削平を伴うことがわかり、東西排水路調査区の見ながら試掘調査を行うこととなった。6月10日に南北、東西排水路調査区の表土除去を行った。東西排水路調査区は削平を受け、畑の根きり溝等の擾乱以外は確認されなかった。南北排水路調査区も遺構は確認していない。農道部分の試掘調査は、2箇所の試掘坑を設けて状況を確認することとなった。

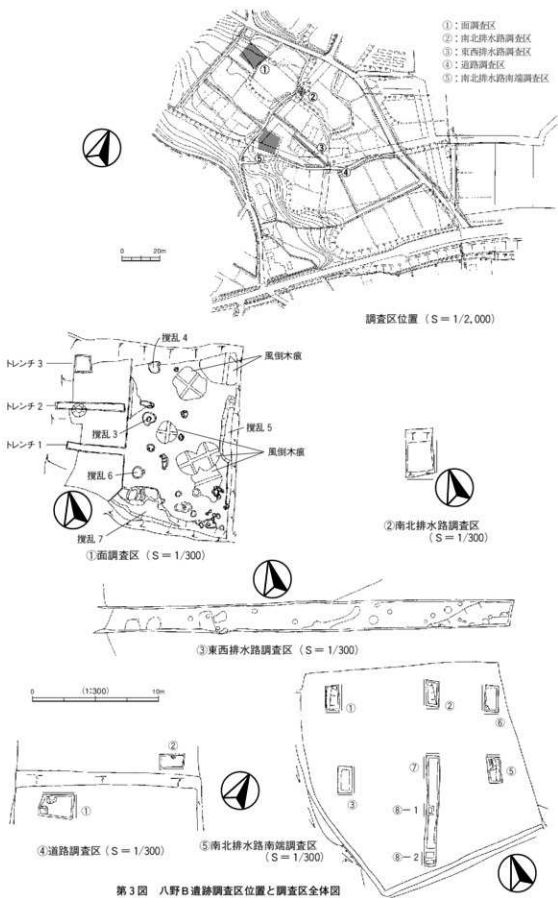
6月13日にはすべての調査区の掘削が終了している。南北排水路南端調査区ではわずかな遺物が出土したものの明瞭な遺構は確認されなかった。他の調査区も同様な結果であった。6月20日に実測作業を終了、現地引渡しを行い、7月5日に機材を搬出し現地での作業をすべて終了した。出土品整理は平成15年度に実施し、報告書の執筆、刊行は平成16年度に実施している。

第3節 調査の概要

八野B遺跡の発掘調査区は、面調査区、東西排水路調査区、道路調査区、南北排水路調査区、南北排水路南端調査区に別れる。全体的に削平されており、残りの良い部分では漸層層が確認される。

面調査区は丘陵緩斜面に位置する。やや、小高く張り出しており、両側は谷地形となっている。調査区内は近世以降の擾乱を受けている。調査区北側は風倒木痕を確認した。縄文、古代の遺構は南東隅で確認し、近世以降の擾乱は調査区西～南側に位置している。南北排水路調査区は面調査区の東に

第3節 調査の概要



第3図 八野B遺跡調査区位置と調査区全体図

谷を挟んで位置している。土器小片が少量出土したが、遺構は確認できなかった。同調査区南側の屋下は平坦面が広がっており、裾に民家の井戸の痕跡が確認できる。東西排水路調査区は南北排水路調査区の南東に位置し、現況では前記調査区より一段低い平坦面に位置する。西側には谷が入り込んでいる。ほとんどが削平されており、両端は急激に落ち込んでいく。遺構は確認できなかった。道路調査区は東西排水路調査区と同じ面に位置する。遺構は確認できなかった。南北排水路南端調査区は、谷地形の真ん中ではあるが、平坦面となっている。ここにも民家が立っていたらしく、平坦面はその時の造成と考えられる。遺構は確認できなかった。

第4節 遺構と遺物

1. 遺 構

P1 (第4図) 面調査区南東隅に位置し、一部風倒木によって壊されている。径約60cm、深さ約25cmの円形を呈する。検出時に大形の礫が斜めに落ち込むような状況があり、掘り進むと下位から同様な状態で礫がもう1点出土した。その下位からは縄文土器下半部(第6図8)が出土した。

P3 (第4図) P1の南東に位置する。径20cmほどの小穴だが、上面から土師器碗が出土し、その脇に第8図44の礫がすえられていた。深さは10cmほどで柱穴とは思われない。

その他、調査区南東隅で柱穴様の穴が確認されているものの判然としえない。

SK1 (第4図) P1の南に位置する。長径約140cm、短径約60cmの楕円形を呈する。坑底は平坦で中央に20cm弱、深さ20cmほどの小穴が穿たれている。坑底からの立ち上がりは垂直に近いが、上部では崩れたのかやや広がる。上面から第7図22の土師器碗が出土しているが、覆土の状況から縄文時代の落し穴と思われる。

遺構の分布からすれば、集落本体は調査区南側に広がると思われる。

掘乱3、4、6はともに径1m弱、深さ10cm前後の円形を呈し、直線状に並ぶ。掘乱7はヘドロがたまつたような土が堆積しており水にかかわるようなものと思われる。

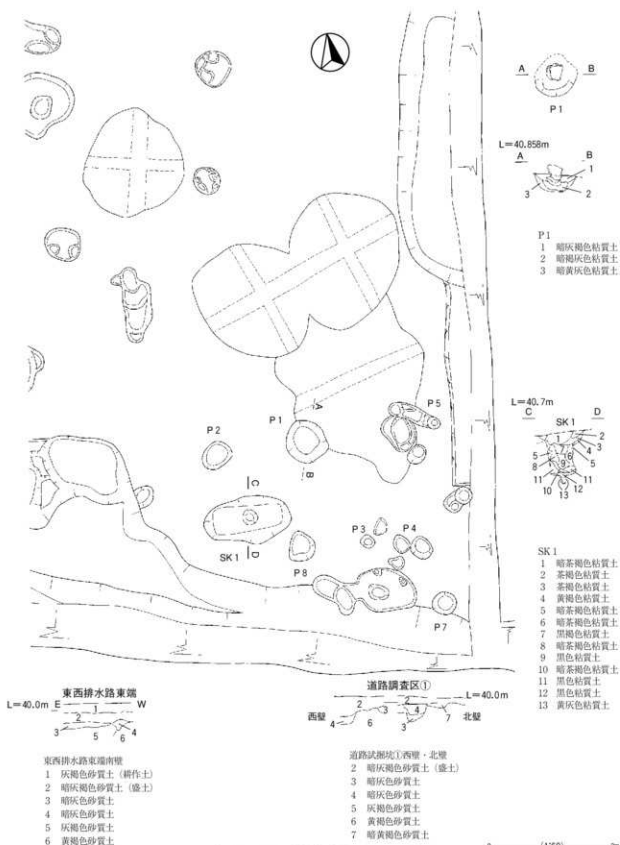
2. 遺 物 (第6図～第8図)

1～9は縄文土器である。1は波状口縁を呈する。口縁部に無文部を設け、その下位に断面三角形の隆帯を貼り付け区画を作り出し、隆帯の縁と区画内に竹管による押し引き文を施している。2～4は半截竹管で文様を描く。3は隆帯に沿って半截竹管を引き、隆帯には綾杉状の刺突を施す。5～7、9は縄文の施された土器である。5、6はやや内湾気味に立ち上がる口縁部である。7～9は底部であるが、8、9は直立気味に立ち上がるのに対し、7は開きながら内湾気味に立ち上がる。いずれも中期中葉ころのものと思われる。

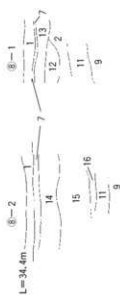
10～19は須恵器である。10～12は蓋、13、14は杯類、15～19は瓶、甕類である。15がP4から出土した以外は耕作土や掘乱から出土している。おおむね8世紀後半頃のものと思われる。20～26、30は土師器である。20～23は瓶類、24は甕、25は鉢、26は羽釜である。10世紀頃のものと思われる。20はP3から出土したもので平高台風形の底部形態をとる。24は南北排水路南端調査区から出土している。30も南北排水路南端調査区から出土したもので、赤彩されている。小型の瓶類と思われる。

27～29は珠洲焼である。27、28は甕、29は播鉢である。29は15世紀頃と思われるが、表採品である。

31～35は陶磁器類である。おおむね19世紀前半頃のものと思われる。掘乱から出土している。八野集落はもともとこの台地の上にあったといわれているが、その頃のものと思われる。



第4図 八野B遺跡遺構実測図 (S=1/60)

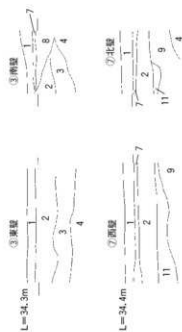


南北排水路南側調査区



南北排水路調査区

- 南北排水路南側調査区
- 1 灰色粘質土 (耕作土)
 - 2 褐色粘質土
 - 3 褐色灰色粘質土
 - 4 褐色灰色粘質土
 - 5 黄褐色粘質土
 - 6 褐色粘質土
 - 7 灰色粘土
 - 8 褐色粘質土
 - 9 褐色粘質土
 - 10 褐色砂質土
 - 11 褐色粘質土
 - 12 褐色砂質土
 - 13 灰褐色砂質土
 - 14 灰褐色粘質土
 - 15 灰褐色砂質土
 - 16 灰褐色粘質土

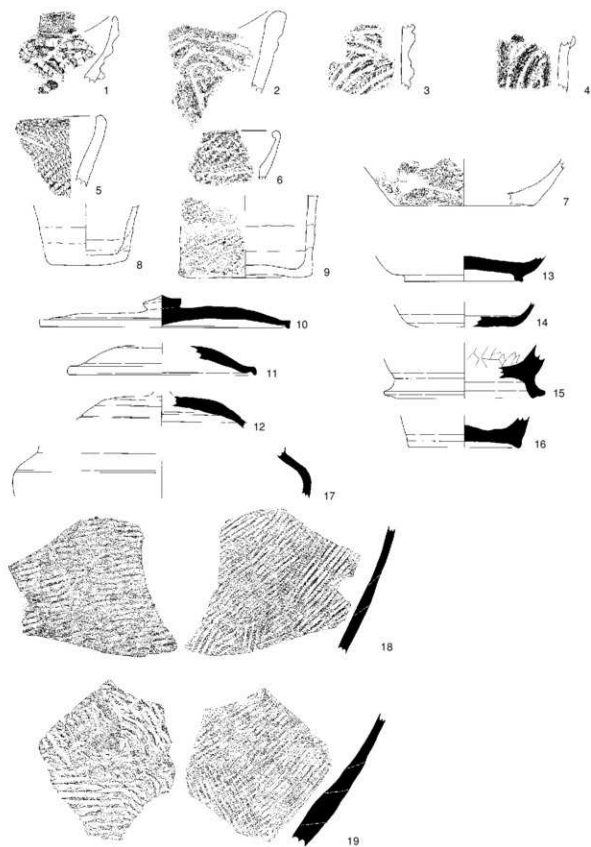


- 南北排水路調査区
- 1 灰色粘質土
 - 2 茶褐色粘質土 (盛土)
 - 3 茶褐色砂質土 (盛土)
 - 4 暗茶灰色粘質土
 - 5 茶褐色砂質土
 - 6 暗茶褐色粘質土
 - 7 沈茶褐色粘質土
 - 8 黄褐色砂質土 (盛土)
 - 9 茶褐色粘質土 (盛土)
 - 10 茶褐色砂質土 (盛土)

第2表 八野B遺跡石器計測表

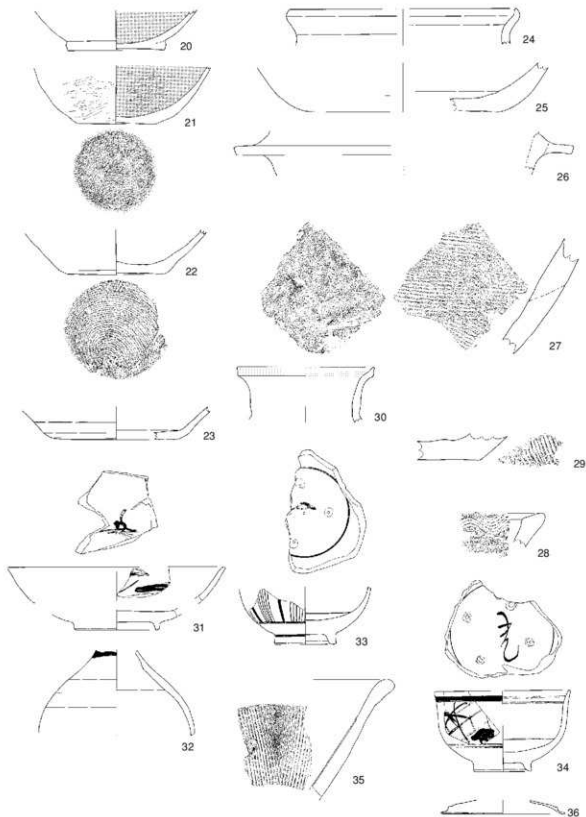
器具	発掘層	種別	区	品	種	最大径	最大幅	厚さ	重量
35	II層-1	細石打石	西	1	石	8.0	4.5	1.4	96.0
36	II層-4	細石打石	西	1	石	5.7	4.8	2.0	35.3
37	II層-3	細石打石	西	1	石	8.1	4.7	2.0	33.1
38	II層-4	細石打石	西	1	石	6.7	4.2	1.8	28.5
41	II層-6	細石打石	西	1	石	10.2	6.7	3.9	425.5
42	II層-8	細石打石	西	1	石	26.9	25.1	7.3	840.0
43	II層-10	細石打石	西	1	石	26.9	14.0	7.4	490.0
44	II層-2	細石打石	西	1	石	26.8	26.3	18.4	1700.0
45	II層-3	細石打石	西	1	石	19.7	7.7	3.3	432.9

第5図 八野B遺跡土層断面図 (S=1/60)



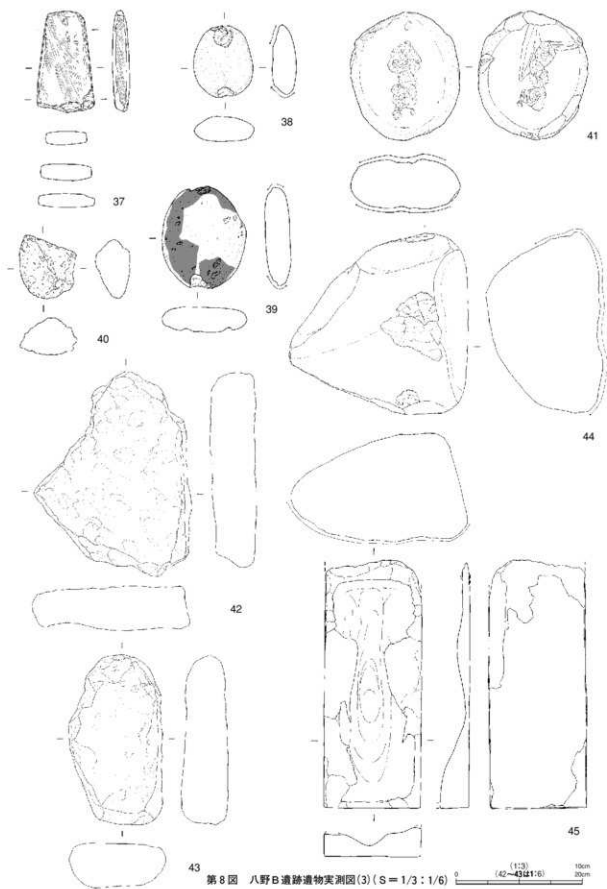
第6図 八野B遺跡遺物実測図(1)(S=1/3)

0 (1:3) 100m



第7図 八野B遺跡遺物実測図(2)(S=1/3:1/6)

0 (1:3) 10cm



第8図 八野B遺跡遺物実測図(3)(S=1/3:1/6)

37は磨製石斧である。撥型の形態をとる。38、39は礫石錘である。ともに扁平な礫を素材としている。39は表面に炭化物が付着しているが、下端部は糸かけの痕跡を残すように炭化物の付着がみられない部分がある。40は軽石である。表面に研磨痕は確認できない。41は磨石類である。表裏面ともにすじ状に連結したくぼみを持つ。42、43はP1から出土した礫である。大きさは異なるものの、厚さが約7cmとそろっている。明瞭な使用痕跡は確認できない。44はP3の横から出土した台石である。赤変しはじけた部分が裏面に確認される。石の稜線付近を除いて摩擦痕が観察され、とくに、裏面に著しい。45は攪乱層から出土した硯である。使用が進み中央部が大きく湾曲している。

第5節 まとめ

今回の発掘調査地点では、確認された遺構、遺物が少なく遺跡の内容を詳細に語ることはできない。縄文時代では落し穴と小穴が確認された。小穴は大形の礫が落ち込んだ状態で出土し、その下位から縄文土器の下半部が出土している。墓坑の可能性が考えられる。一方で落し穴が確認されることから、狩猟にかかわる場所であったことはまちがいない。古代は建物が復元できず様相は不明である。出土土器には、時期的に2つのまとまりがあり、2時期以上の集落跡が想定される。中世は遺物のみであるが、近くの墓地には五輪塔が移築されており、周辺に中世墓の存在が想定される。

探検 番号	発掘番号	出土地点	種別	口径	底径	器高	色調(内側)	色調(外側)	胎土	乾度	調整(内側)	調整(外側)	備考
1	D-7	調査区P1土・5	縄文・漆鉢		5.4								
2	D-10	調査区P1土	縄文・漆鉢		6.5								
3	D-8	調査区P1土	縄文・漆		3.2								
4	D-25	調査区P1土	縄文・漆				褐色	褐色	磁鉄含有	良			遺棄あり
5	D-11	調査区P1土	縄文・漆鉢		5.6								
6	D-9	調査区P1土	縄文・漆鉢		3.9								
7	D-12	調査区P1土・5	縄文・漆鉢		11	3.7							
8	B-1	調査区P1	縄文・漆鉢		6.1								底面欠損
9	D-2	調査区P1	縄文・漆鉢		10.6								
10	D-1	調査区P1土・5	縄文・漆		10.9		灰	灰		良	ロクロナデ	ロクロナデ、1周回り	
11	D-15	調査区P1土	縄文・漆		14.8		灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ロクロナデ	ロクロナデ、へら回	
12	D-24	調査区P1土・5	縄文・漆				灰	灰	磁鉄含有	良	ロクロナデ	ロクロナデ、へら回 後縁折れ	
13	D-5	調査区P1土・5	縄文・漆		9.4		灰白	灰		良	ロクロナデ	ロクロナデ、1周回り	
14	D-16	調査区P1土	縄文・漆		8.2		灰	灰	磁鉄含有	良	ロクロナデ	ロクロナデ、へら回	
15	D-23	調査区P1土	縄文・漆		12.8		灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ナデ	ロクロナデ	
16	D-6	調査区P1土	縄文・漆		9.1		灰白	灰白		良	ロクロナデ	ロクロナデ	
17	D-28	調査区P4	縄文・漆		3.3		灰	灰		良	ロクロナデ	ロクロナデ	
18	D-26	調査区P1土・5	縄文・漆				灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ナデ	ナデ	
19	D-27	調査区P1土・5	縄文・漆				灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ナデ	ナデ	
20	D-3	調査区P3	土師器・有付 打		2.7	3.2	にぶい黄 褐色	にぶい黄 褐色	約1.5mm磁鉄少量含有	良	1ダネ	不明	内底
21	D-2	調査区P1	土師器・埴 		6.28	4.85	にぶい黄 褐色	にぶい黄 褐色	約1.5mm-2.0mm磁鉄 少量含有	良	1ダネ	1ダネ、底面折れ あり	内底
22	D-4	調査区SK1上面	土師器・埴 		3.5		にぶい黄 褐色	にぶい黄 褐色	約1.5mm磁鉄少量含有	良	ロクロナデ	ロクロナデ、底面折れ あり	
23	D-22	調査区P1	土師器・埴 		10.2		浅黄褐色	浅黄褐色	磁鉄・磁石含有	良	器型により調整不明	器型により調整不明	
24	D-17	東北館本館南側トレンチ	土師器 (18A)				浅黄褐色	浅黄褐色	磁鉄・磁石・シレー キ含有	良	器型により調整不明	器型により調整不明	
25	D-19	調査区P1	土師器		15.4		にぶい黄 褐色	にぶい黄 褐色	磁鉄・磁石含有	良	器型により調整不明	器型により調整不明	
26	D-13	調査区P1	土師器・打		3		にぶい黄 褐色	にぶい黄 褐色	約1.5mm-1.5mm磁鉄 少量含有	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
27	D-20	調査区P1	漆器				灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ナデ	ナデ	
28	D-18	東北館本館南側トレンチ	漆器・漆鉢				灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ロクロナデ、1周回 確認	ロクロナデ	
29	D-21	調査区P1	漆器				灰	灰	磁鉄・磁石含有	良	ナデ	ナデ	
30	D-14	東北館本館南側トレンチ	土師器・埴		10.8	4.4	浅黄褐色	にぶい黄 褐色	約1.5mm磁鉄少量含有	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
31	D-30	調査区P1	磁器・磁鉢		6.3				白色磁器				器：透明感で少し緑 影あり。磁器。 種：置きひねり軸。 1周上から11周が かがみ目に見える。
32	D-33	調査区P1	磁器						にぶい黄、固く焼き固 まっている				器：透明感、音程が ある。磁器か灰土 器か。
33	D-34	東北館本館南側トレンチ	磁器		4.6				白色磁器				種：透明感、音程が ある。
34	D-29	調査区P1	磁器・磁鉢		10.6	4.7	8.5		白色磁器				器色、白色磁鉄少量含有 (白く磁鉄少量含有、 強く焼き固まっている)
35	D-32	調査区P1	磁器						白色磁器				種：灰褐色
36	D-35	調査区P1	磁器		9.8	11.1							重量(11.1)

第3表 八野B遺跡土器観察表

第3章 黒川B遺跡

第1節 調査に至る経緯

かほく市黒川地内で石川県が県営中山間地域総合整備事業（大海地区）を実施することになった。本調査箇所は水田として利用されていたが、水田の拡張整備を行うことになった。この事業に関して石川県教育委員会文化財課と石川県農林水産部中山間地域対策総室との間で埋蔵文化財についての協議が持たれた。その結果、事業実施前に埋蔵文化財の確認調査を行うこととなった。文化財課が平成13年11月12日に試掘調査を行った。網掛け部分に4ヶ所の試掘坑をいれ、確認したところ遺構または遺物が4ヶ所全てにおいて確認された。文化財課は新規発見の遺跡として認定し、第9図の網掛け範囲を黒川B遺跡とした。遺跡の総面積は約5000m²であり、このうち事業に伴う工事により遺構の損壊する排水路部分（200m²）の発掘調査を事前に行うことになった。

平成14年度に文化財課は発掘調査を財団法人石川県埋蔵文化財センターへ委託した。これを受けて当センターは平成14年度に発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過

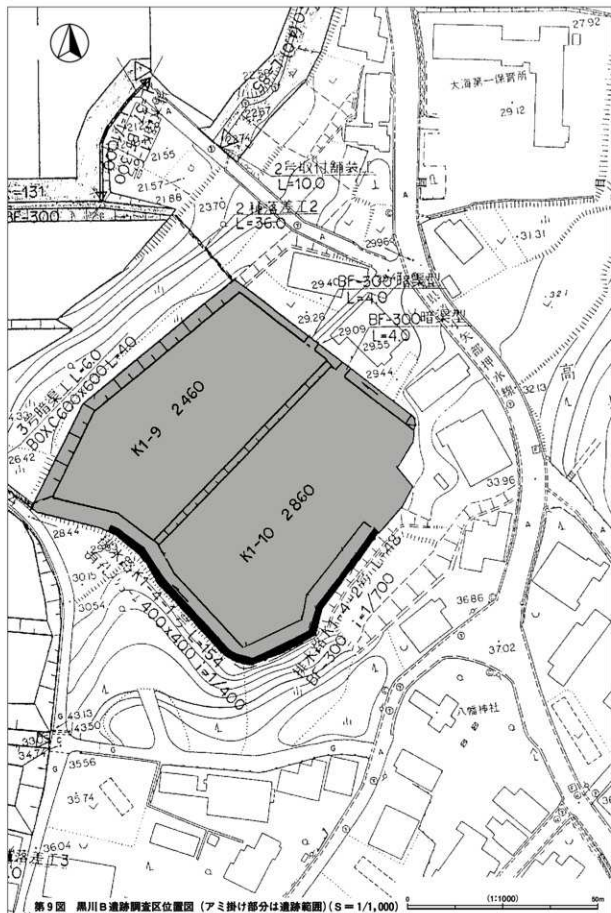
平成14年11月19日に津幡農林総合事務所、石川県教育委員会文化財課、石川県埋蔵文化財センターの三者で発掘調査の現地打合が行われた。11月26日にバックホーによる表土除去作業を行った。11月28日に基準杭設定作業を行った。11月29日から12月5日まで遺構検出と遺構の掘り下げ作業及び遺構実測作業を行った。12月9日に器材を撤収し、12月10日に現場打合を行い、津幡農林総合事務所へ現場を引き渡した。

第3節 調査の概要

黒川B遺跡は古代の集落遺跡である。遺跡は調査箇所の平坦面に展開しているものと思われる。この平坦面は発掘調査前、水田として利用されていた。平坦面南東側の小高い所に小規模な溜池があり、水田に必要な水はそこから引き込んでいたものと思われる。本調査区は排水路部分の調査であり、調査区のセンターラインは排水路のセンターラインに一致する。センターの変換点などに基準杭を設定し、調査を進めた。基準杭は西から順に杭1とし、杭10まで設定した。調査区は幅約2m、長さ約100mのものである。

平坦面の地形は北西方向に向かって緩やかに傾斜している。表土は30～40cmの厚さで堆積しており、表土を除去すると緑灰色粘質土、褐色砂礫土の地山面が現れる。杭1～3の間は主に褐色砂礫土の地山面で杭3～10までは主に緑灰色粘質土の地山面である。調査区の検出面の標高は東側端が30.23m、中央付近が28.8m、西側端が28.65mであり、東側から西側へ緩やかに傾斜している。

今回の調査箇所は遺跡の際にあたるものであり、遺跡の性格を特定するには至らなかった。検出した遺構は溝4条、土坑2基、柱穴である。調査区の東側には鞍部1があり、古代の土器が出土した。



第9図 黒川B遺跡調査区位置図 (アミ掛け部分は遺跡範囲) (S = 1/1,000)

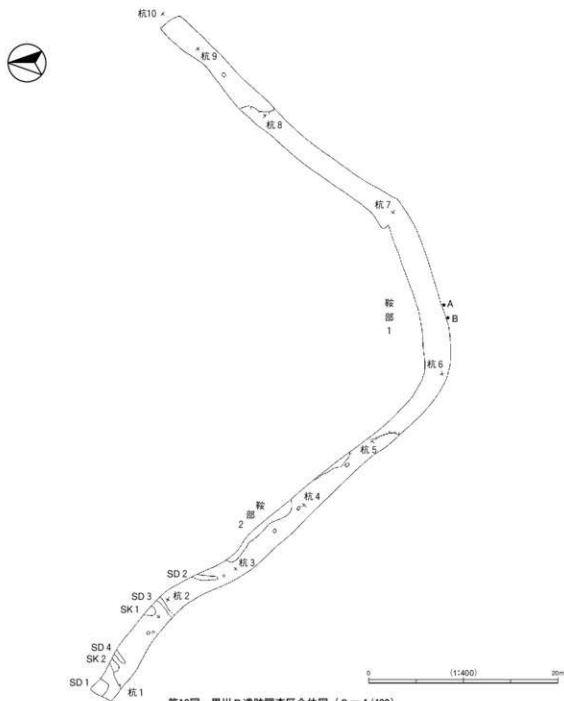
第4節 遺構と遺物

1. 柱 穴

検出された柱穴で建物を復元できたものはなかった。柱穴の径は20～30cmにおさまるものであり、深さは20cm前後である。遺構覆土は暗灰粘質土のものが多く、出土遺物はなかった。

2. 土 坑

SK 1 土坑の約半分を検出した。土坑の幅は約1.2m、深さ約5cmの浅いものである。遺構覆土は



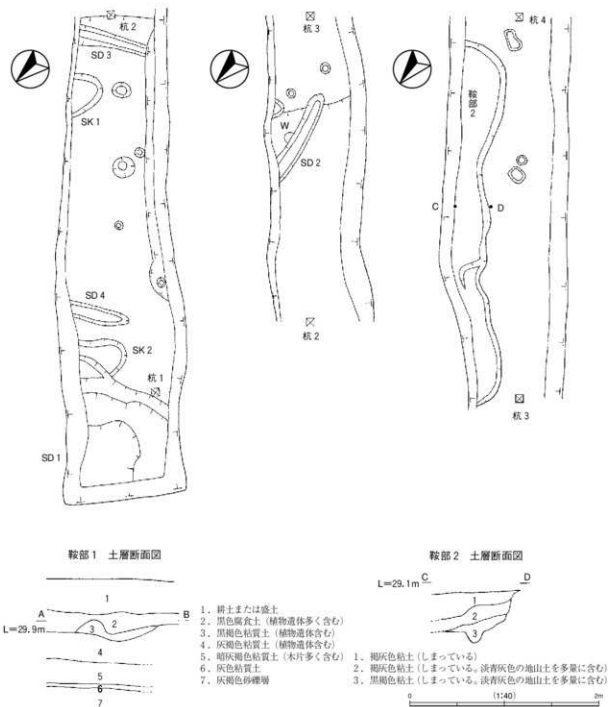
第10図 黒川B遺跡調査区全体図 (S=1/400)

暗灰粘質土であり、出土遺物はなかった。

SK2 土坑の一部を検出した。土坑の幅は約1.2m、深さ約8cmの浅いものである。遺構覆土は赤褐色砂質土であり、出土遺物はなかった。

3. 溝

SD1 遺構の一部を検出した。幅約2.9m、深さ約55cmであり、遺構覆土の上層の厚さ約50cmで土色は灰色粘土、下層の厚さは10cmで土色は黒褐色粘質土である。上層は人為的な埋土のようであり、下層は自然堆積層と思われる。出土遺物はなかった。



第11図 黒川B遺跡遺構実測図 (S=1/40)

SD2 遺構の一部を検出した。長さ約1.7m、幅約40～50cm、深さ約10cmである。遺構覆土は暗灰褐色粘質土である。出土遺物はなかった。

SD3 遺構の一部を検出した。長さ約1.9m、幅約40cm、深さ約10cmである。遺構覆土は暗灰褐色粘質土である。出土遺物はなかった。

SD4 遺構の一部を検出した。長さ約1.7m、幅約40cm、深さ約5cmである。遺構覆土は暗灰色粘質土である。出土遺物はなかった。

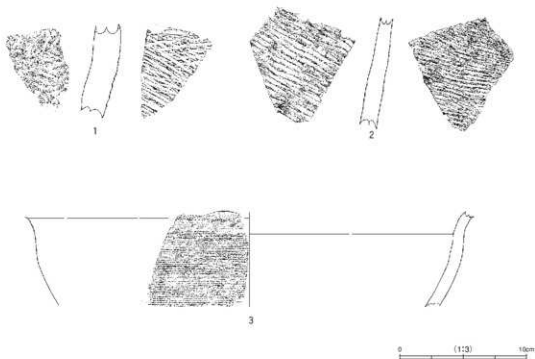
4. 鞍 部

鞍部1 長さ約41m、幅2mにわたり検出した。調査区の約4割を占める。深さは約1.1mであり、覆土に植物遺体、木片を多く含むものであった。上層の1～2層から古代の土器片が3点出土している。覆土の堆積状況からみると鞍部は埋め戻されたものではなく、自然に埋没したものと思われる。鞍部の地山土は灰褐色砂礫土であった。

鞍部2 長さ約9.5m、幅約40cmにわたり検出した。深さは約40cmである。調査区の北東側に広がるものと思われる。地山土は礫が混じる明黄褐色粗砂である。

5. 遺 物

3点が鞍部1から出土し、全て古代の須恵器である。1と2は貯蔵具片、3は鉢片である。1の外面は暗灰色、内面は灰色で厚さは2.0cmである。胎土に1～2mmの砂粒が混じる。内面のあて具痕は摩耗のためかはっきりしない。2の外面は暗灰色、内面は灰色で厚さは1.5cmである。胎土に1～2mmの砂粒が混じる。3は鉢で、外面灰色、内面は外面よりやや暗い灰色である。外面はカキ目調整が施され、内面は丁寧に撫でられている。厚さは8mmで、頸部の径は35cmである。胎土に1～2mmの砂粒が混じる。



第12図 黒川B遺跡遺物実測図 (S=1/3)



面調査区発掘調査前風景



面調査区全景



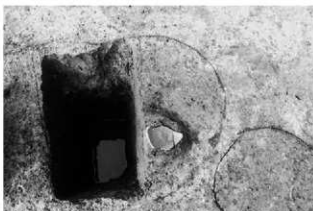
面調査区作業風景



面調査区作業風景



面調査区遺物出土状況



面調査区 SK 1 上面遺物出土状況



面調査区 SK 1 土層



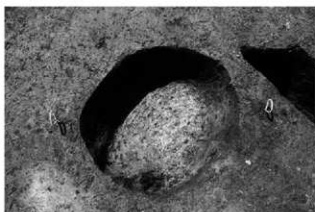
面調査区 SK 1 発掘状況



面調査区 P1 土層断面・曝出土状況



面調査区 P1 曝出土状況



面調査区 P1 完掘状況



面調査区 P3 遺物出土状況



面調査区 P3 曝出土状況



面調査区 P3 完掘状況



面調査区トレンチ1土層



面調査区トレンチ2土層



面調査区トレンチ2北壁土層



面調査区東壁土層



面調査区トレンチ3北壁土層



東西排水路調査区発掘調査前風景



東西排水路調査区表土除去風景



東西排水路調査区作業風景



東西排水路調査区全景



東西排水路調査区東端全景



東西排水路調査区東端南壁土層



南北排水路調査区調査前風景



南北排水路調査区全景



南北排水路南壁土層



南北排水路東壁土層



道路調査区①全景



道路調査区①北壁土層



道路調査区②全景



南北排水路南端調査区作業風景



南北排水路南端調査区トレンチ①



南北排水路南端調査区トレンチ②



南北排水路南端調査区トレンチ⑦-1



南北排水路南端調査区トレンチ⑥



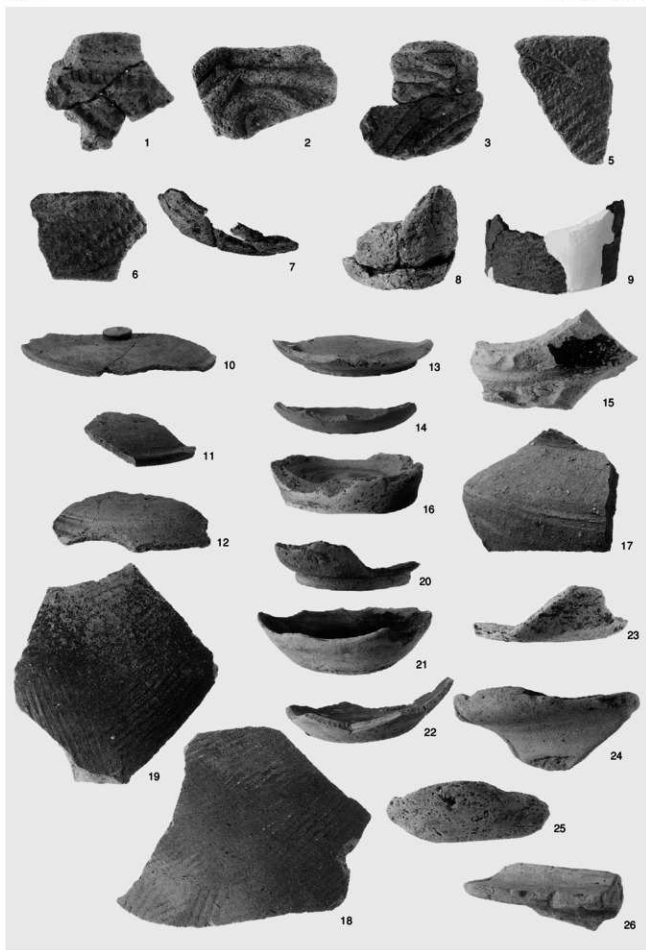
南北排水路南端調査区トレンチ⑧-2

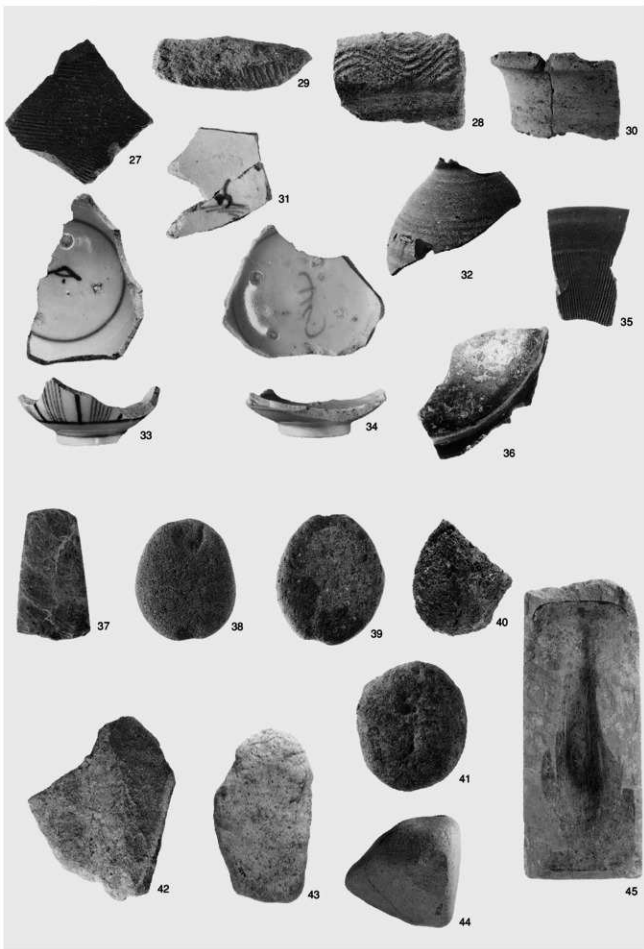


南北排水路南端調査区トレンチ⑧-1



八野集落墓地に残る五輪塔







遺跡遠景 (大海西山遺跡から)



調査区遠景 (北から)



発掘状況 (北西から)



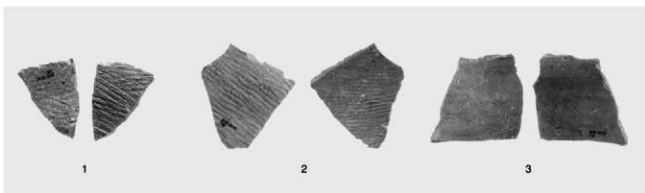
発掘状況 (北東から)



SD 1 発掘状況 (南から)



鞍部1 土層 (北西から)



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かほくしはちのびーいせき・くろかわびーいせき							
書名	かほく市八野B遺跡・黒川B遺跡							
副書名	中山間地域総合整備事業（大海地区）							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	本田秀生、白田義彦							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-1560							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
八野B遺跡	かほく市八野	172090	23073	36度 46分 50秒	136度 45分 34秒	20020507 ～ 20020620	530m ²	中山間地 域総合整 備事業(大 海地区)
黒川B遺跡	かほく市黒川	172090		36度 46分 27秒	136度 45分 31秒	20021126 ～ 20021210	200m ²	中山間地 域総合整 備事業(大 海地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
八野B遺跡	集落跡	縄文時代	小穴、落し穴	縄文土器、石器				
	集落跡	古代	柱穴	須恵器、土師器				
黒川B遺跡	集落跡	古代	溝、柱穴	須恵器				
要約	<p>八野B遺跡：丘陵緩斜面に位置する縄文時代、古代の集落跡の端を捉えた。縄文時代では落し穴と墓坑の可能性のある小穴を確認した。古代では柱穴を確認した。いずれも集落本体は緩斜面の下方に展開すると思われる。</p> <p>黒川B遺跡：谷部の平坦面に位置する古代の集落の縁辺を確認した。集落本体はもう一段高い平坦面に展開することが予想される。</p>							

かほく市 八野B遺跡・黒川B遺跡

発行日 平成17(2005)年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市桜月1丁目1番地

電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 福島印刷株式会社